

# 数学の時間

2007.8.17 鈴木咲衣

私の思う数学研究の特徴、それは一言で言えば‘自由’です。  
大きな装置や道具は必要ありません。  
ただ、考える頭さえあれば、いつでも、どこでも、数学は出来ます。

京都大学数理解析研究所に籍を置き、私は毎日数学をしています。朝起きて、料理をして、数学をして、外を走って、数学をして、好きな本を読んで、数学をして、料理をして、(お昼寝して)、数学をして、買い物に出かけて、数学をして…という具合です。毎日の生活は、1から9くらいまでは自分で決められます。(週に1度セミナーがある分が1です。) 1日中寝ている日もあれば、朝思い立ってそのまま旅行に行く事もあります。研究者の生活リズムは十人十色。人ならぬ生活の人も多々います。

相手が生物や機械でない分、数学の研究は自分との戦い、という面が強いように思います。‘自由である’というのは、それだけ自己統制力が必要だということです。楽しいな、とか、好きだな、と感じる瞬間が自分を支えてくれます。

数学だけに限らず、大学での研究はテストや受験に向けての勉強とは異なります。これだけやっていれば良い、というものはありません。自分の興味のあること、好きなこと、本当にやりたいことはなにか、自分自身でしっかり意識をもっていないと迷子になります。ある日突然、「あれ？なんで私はこんな事をやってるんだろう？」となったら悲惨です。せつかく何度も苦難を乗り越えて、やりたい研究ができる状況がやってきても、自分のやりたいことが分からない。おかしな話ですが、そうゆう事はよく起こります。

たくさんの人と出会って、出会った人の数だけ価値観を知って。その上で自分の好きなこと、わくわくすることを感じる。その‘感じ’に耳を澄ませて、素直に従う。やるべきことを与えられ続けていると、自分の感覚が鈍ります。(やるべきことはやらなければいけません。) でも、いざ自由になったとき、必要なのは自分の感覚です。それがないと、自分のしている事にどこか自信が持てず、常に不安、常に焦り、身の置き所がない…ということに。それでは自由な生活が台無しです。そうならないよう、自分の感覚を大切にしておいてほしいです。

せつかく手に入れる自分の時間を、お気に入りの毎日にするために！！